

2021 金沢大学(前期日程) 問題分析 (3/2 更新)

<英語>

【分量】 昨年並み

【難易】 昨年並み

【問題分析】

大問構成は昨年度と変わらず。大問Ⅰ・Ⅱは長文問題で、記述の小問は例年通り英問英答形式での出題だった。本文の中から根拠になる箇所を適切に見つけ出し、語数制限に気を付けながら解答を作る必要がある。その他の小問も昨年度と同様の形式で、大問Ⅰに本文中の単語と近い意味の単語を選ぶ問題、大問Ⅱに内容一致問題があり、両大問の最後には短めの意見型英作文が課される。大問Ⅲは英作文問題で、イラストについて80~120語の英文を書く。指定された要素を盛り込みながら、文法ミスの無い丁寧な答案を作ることが求められる。

<文系数学>

【分量】 昨年並み

【難易】 昨年並み

【問題分析】

大問1は微分・積分。3次曲線の接線、2つの3次曲線で囲まれた図形の面積を求める問題。大問2はベクトル。小問の誘導により、ベクトルの内積、大きさを求めながら直線と円の交点のベクトルにつなげる。大問3は不定方程式を利用した整数問題。不定方程式は2019年度入試にも出題されている。大問1、2とも標準的な頻出問題のため、計算ミスなく完答したい。大問3は解きづらいと思う受験生も多かったであろう。

<理系数学>

【分量】 昨年並み

【難易】 やや易化

【問題分析】

大問4題のうち3題が数Ⅲからの出題で昨年と同じであった。数列(数B)は誘導が丁寧で解きやすかっただろう。今年も数Ⅲから3題の出題であったが、複素数平面からの出題はなく、数Ⅲ序盤で学習する極限・微分の問題が目立つ。煩雑な計算はあるものの落ち着いて計算すれば十分解答できると思われる。積分からは体積の出題はあったが、参考書などでよく見る典型題で決して難しいものではなかった。コロナによる学習の遅れを配慮したのか、昨年のような積分の応用問題が出題されなかった。大問4で差がつくと思われるが、全体としては正確な計算が問われる出題であった。

<物理>

【分量】 増加

【難易】 難化

【問題分析】

問題文の分量が例年より増加し、問題文をしっかりと読解し物理の本質を見抜く「思考力」が問われる設問が増え、また、数値計算の設問も多くなった。大問Ⅰは受験生には見慣れないハードな問題だったので、例年通りの基本問題だと思っていた受験生は苦労したであろう。原子分野は大問Ⅱの発光ダイオードの問題の中で多少触れられるにとどまった。大問Ⅲ,Ⅳ,Ⅴはほとんどの設問が頻出だが、最後あたりの設問で差が付く。大問Ⅵは力学と電磁気の融合問題で分野にとられない物理の理解力が問われた。

<化学>

【分量】 やや減少

【難易】 やや易化

【問題分析】

3年連続で医薬品分野からの出題があったが、今年はお題されなかった。例年通り、語句の穴埋め、化学反応式、計算、記述形式での出題であった。特に今年の実算問題はすべて計算過程を書かせる形であり、出題数が増加した。一方で記述問題は減少していた。ⅠとⅦでは無機、Ⅱは有機、ⅢとⅥは理論、ⅣとⅤでは高分子からの出題であった。特にⅣのトレハロースの構造を書かせる問題やDNA塩基の水素結合の場所を書かせる問題は苦手な受験生が多く、差がついたであろう。全体的に、知識問題の語句の穴埋めや化学反応式も標準的であり、計算問題や記述がどれだけ取れたかで合否が分かる。

<生物>

【分量】 昨年並み

【難易】 昨年並み

【問題分析】

例年通り記述問題に字数制限はなかった。各大問は単元ごとの出題となっていた。大問Ⅱと大問Ⅵに計算問題が集中しており、特に大問Ⅴでは数学的な知識も必要な問題が出題された。どの大問でも極端に難しい出題はなかったが、資料集レベルの知識は要求されている。選ぶ大問によって記述中心か計算中心かが分かるので問題選びには注意したい。

<国語>

【分量】 昨年並み

【難易】 やや易化

【問題分析】

現代文 2年ぶりの小説で、戦争に触れた文章としては2018年以降毎年出題されている。問2、問4の傍線部問題は解答根拠が容易に見つけられ、問3の穴埋め問題も解説文と本文の対応が分かりやすかったので、全体的に易化した。

古文 平安時代の歌集からの出題。問1は文脈から活用語尾を考える基本問題。問2も「見立て」に関する基本問題。問3は前半も踏まえなければ正確な答えは書きづらい。問4の主体判定は二重カギ括弧(『 』)を手かがりにすれば容易。難易度は昨年並み。

漢文 北宋時代の欧陽修『帰田録』からの出題。問1は選択肢の正確な意味を知っていないと迷いやすい。問2の読みは基本的で頻出問題。問3、問4は本文の筋が追いややすいので容易に解答できたはず。難易度は昨年並み。

<総合問題>

【分量】 昨年並み(英語問題を除く)

【難易】 昨年並み(英語問題を除く)

【問題分析】

I (各学類共通問題) 男女賃金格差や各国の女性の労働実態の資料を読み、問1は賃金格差の要因を、問2は政府(企業)が講ずべき改善案を述べる問題。

II (先導学類、文系一括専用問題) SDGsに関し、問1は資料の読み取り問題。問2は環境活動家のグレタ・トゥーンベリ氏の主張に対して自分の意見を述べる問題。

III (人文学類専用問題) グローバルヒストリーについての文章を読解した上で、問1はその問題点を、問2は外国人入国者数などの資料を基に自分の意見を述べる問題。

IV (学校教育学類専用問題) 「確かな学力」に関して文章や資料を読み、問1は2000年代の政策の考察、問2は、共通する学力観を読みとる問題。

V (国際学類専用問題) 個人の利益と全体の利益に関する文章を読み、問1は文章読解、問2は国家と国際社会に当てはめて自分の意見を述べる問題。

総合問題は、地方自治、LGTB、生存権、貧困家庭、働き方改革などをテーマとして出題されており公民の知識が不可欠である。教科書や問題集で知識を身につけるだけでなく、ニュースにも触れて現代社会が抱える問題に関心を寄せておきたい。また、選択問題では各学類に関連した内容が出題されている。